

# 市長定例記者会見資料



|           |              |
|-----------|--------------|
| 令和2年8月26日 |              |
| 所属        | 政策推進課        |
| 所属長       | 堀井 美雲        |
| 電話        | 06-6489-6124 |

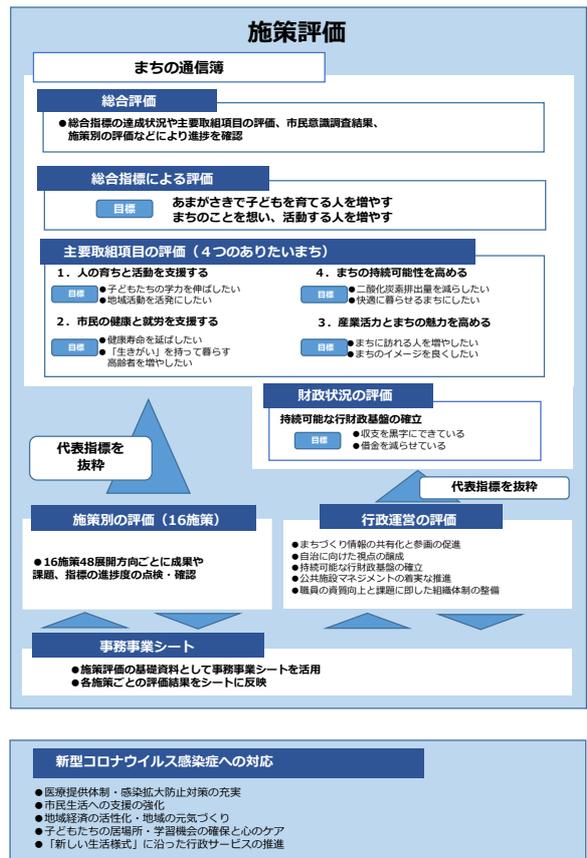
ここを読めば、まちづくりの評価が分かる。「まちの通信簿」がまとまりました  
～令和2年度 施策評価結果（令和元年度決算）を公表します～

## 1 施策評価とは

尼崎市では、平成25年度に策定した総合計画（まちづくり構想）において、目指すべき4つの「ありたいまち」を示しています。

また、その実現に向けては、本市の事務事業を16施策（学校教育・高齢者支援等）に分類し、取組の方向性を示すとともに、毎年度、取組状況を振り返る「施策評価」を実施し、その結果を政策立案など次年度の予算編成につなげていくといったPDCAサイクルを実施してきました。

後期まちづくり計画期間の2年目の評価となる、令和2年度の施策評価においても、市民の皆さんに、市政の状況を分かりやすくお伝えし、市政に関心を持っていただけるよう、これまでの各施策の評価に加え、「4つのありたいまち」に向けた進捗評価や、まちづくり全体に対する総合評価など、“ここを読めば本市のまちづくりの進捗状況が分かる”といったものを「まちの通信簿」としてまとめ、公表していきます。



## 2 「まちの通信簿」

「まちの通信簿」においては、まちづくりの総合目標と、4つのありたいまちごとの目標に対し、それぞれ指標を定め、その推移をもとに、まちづくりの進捗を総合的に評価しています。

### (1) 総合評価・別冊P23、24

本市における人口の増減数は2年連続の増加、社会動態は4年連続の増加となりました。一方で、まちづくりの総合指標である「ファミリー世帯の転出超過数」は、目標の達成には至っていません。ファミリー世帯の転出数は減少傾向にあるものの、転入数については大規模住宅開発の影響がみられます。

「住みやすいまち」として評価され、「本市のイメージが良くなった」と感じる人の割合が前年度に比べ6ポイント以上上昇している状況を継続していくため、今後もまちの魅力を発信していくとともに、本市の多様な住宅地の特徴をブランディングしていくなど、ファミリー世帯向けの良好な住宅が供給されるまちづくりを進めていく必要があります。

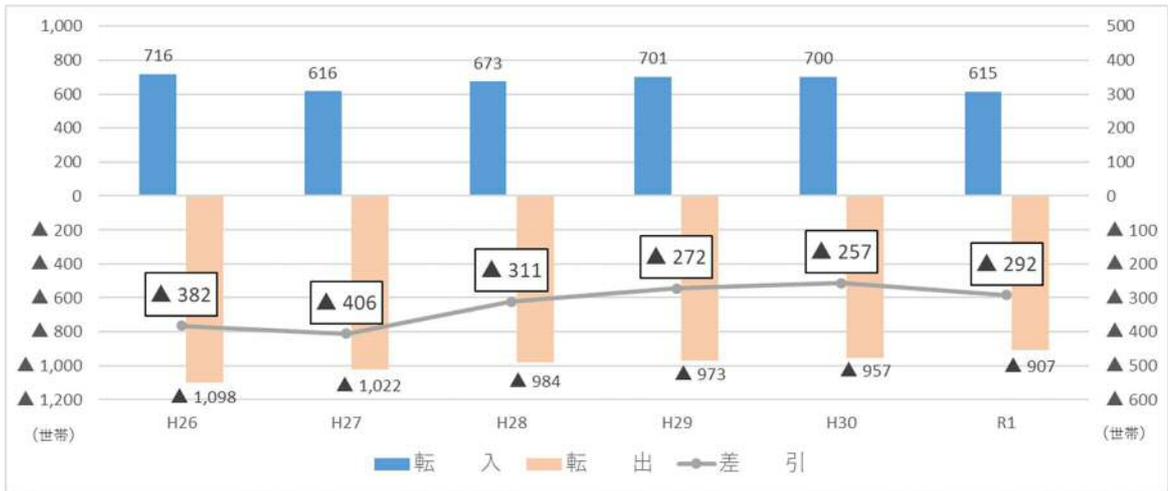
(2) 総合指標によるまちづくりの評価・・・別冊P9～13

① 目標1：あまがさきで子どもを育てる人を増やす

- ・ ファミリー世帯の転出超過数は住宅供給の影響などによりやや悪化したものの、市外へ転出する世帯は減少が続いており、「子どもを育てるまち」として本市を選ぶ世帯が増えている傾向にあるものと考えています。
- ・ 本市の人口は、若い世代の転入が大幅に増加し、2年連続の増加、社会動態も4年連続の増加となりました。



【本市の社会動態の推移（ファミリー世帯）】



② 目標2：まちのことを想い、活動する人を増やす

- ・ 令和元年度の市民参画指数は43.5となり前年度と比べほぼ横ばいで推移しました。また、尼崎を推奨する意欲（地域推奨意欲）は20歳代、30歳代においてやや高い傾向が見られます。
- ・ まちへの愛着を持つ若年世代を増やしていくことで、地域における活動の担い手が増加するとともに、それらの活動が学びや自己の成長へとつながり、まちへの愛着がさらに高まるといった好循環が生まれ、ファミリー世帯の定住につながっていくことを目指します。



【市民意識調査による市民参画指数等】

|        | 地域推奨意欲 |     |     | 地域活動意欲 |      |     | 地域活動感謝意欲 |     |      |     |     |     |
|--------|--------|-----|-----|--------|------|-----|----------|-----|------|-----|-----|-----|
|        | 低い     | 普通  | 高い  | 低い     | 普通   | 高い  | 低い       | 普通  | 高い   |     |     |     |
| H30    | 35.5   | 50% | 29% | 21%    | 23.0 | 67% | 20%      | 13% | 70.0 | 19% | 22% | 59% |
| R1     | 37.5   | 47% | 31% | 22%    | 21.0 | 69% | 20%      | 11% | 72.0 | 17% | 22% | 61% |
| R1-H30 | 2.0    | ▲3% | 2%  | 1%     | ▲2.0 | 2%  | 0%       | ▲2% | 2.0  | ▲2% | 0%  | 2%  |

| 市民参画指数  |      |
|---|------|
| ( (推奨意欲 37.5) + (活動意欲 21.0) + (感謝意欲 72.0) ) ÷ 3 | 43.5 |

### (3) 4つの「ありたいまち」に向けた主要取組項目ごとの評価・別冊P12～20

#### ① 人の育ちと活動を支援する

(目標1:子どもたちの学力を伸ばしたい 目標2:地域活動を活発にしたい)

**トピック** 子どもの学力の全国平均との差は横ばい、学校間の差は縮小! (別冊P14)

#### ② 市民の健康と就労を支援する

(目標1:健康寿命を伸ばしたい 目標2:「生きがい」を持って暮らす高齢者を増やしたい)

**トピック** 健康寿命、平均寿命は男女ともに延伸! (別冊P17)

#### ③ 産業活力とまちの魅力を高める

(目標1:まちを訪れる人を増やしたい 目標2:まちのイメージを良くしたい)

**トピック** 観光客入込客数は市制100周年の年を超える!

「まちのイメージがよくなった」と感じる市民の割合は上昇中! (別冊P19)

#### ④ まちの持続可能性を高める

(目標1:二酸化炭素排出量を減らしたい 目標2:快適に暮らせるまちにしたい)

**トピック** 市内における二酸化炭素排出量は減少! 「民生家庭・業務部門」の更なる削減が課題 (別冊P21)

### 3 新型コロナウイルス感染症への対応・別冊P27～31

今年度については新型コロナウイルス感染症への対応といった視点ももって評価を実施しています。その評価結果については「まちの通信簿」とは別にまとめるとともに、「五つの柱」により対応していきます。

#### ① 医療提供体制・感染拡大防止対策の充実

PCR検査の増強や民間検査機関の活用など検査体制を充実 (別冊P28)

#### ② 市民生活への支援の強化

一人ひとりに寄り添った支援の実施 (別冊P29)

#### ③ 地域経済の活性化・地域の元気づくり

事業を継続している事業主への支援はもとより新たなビジネスモデルに取り組む事業主へも支援を実施 (別冊P30)

#### ④ 子どもたちの居場所・学習機会の確保と心のケア

これまでの取組の成果と課題を整理し、より効果的な取組につなげる (別冊P31)

#### ⑤ 「新しい生活様式」に沿った行政サービスの推進

行政サービスの提供体制を「新しい生活様式」に沿ったものへ転換  
従来の慣行、意識を変革 (別冊P31)

### 4 施策評価結果の活用

施策評価結果は、市議会に決算審査の附属資料として示し、施策評価を踏まえた意見(提言)をもらうとともに、令和3年度の予算編成につなげていきます。

また、まちづくりの進捗を市民・事業者の皆さまと共有するために、「まちの通信簿」を9月1日から市ホームページで公表します。

※今後、内容について分かりやすくまとめたポスターを市内公共施設等においても掲示していく予定です。

(以上)